

2016（平成28）年度

地域連携センター一年報

津市立 三重短期大学

目 次

地域連携センター事業を振り返って

I	平成28年度 地域連携事業の概要	・・・	1
1	生涯学習機会の提供		
(1)	オープンカレッジ	・・・	2
(2)	地域連携講座	・・・	8
(3)	みえアカデミックセミナー2016	・・・	9
(4)	出前講座	・・・	10
(5)	講座開催一覧	・・・	14
(6)	科目等履修生制度	・・・	16
2	高等学校等との連携		
(1)	高大連携校との高大連携	・・・	18
(2)	一身田中学校図書館ボランティア活動	・・・	19
3	産学官連携の推進		
(1)	株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研との産学連携	・・・	20
(2)	三重短期大学シーズ集「みえたんの種」の活用	・・・	23
4	市政との連携		
(1)	政策研究・研修	・・・	25
(2)	市政との連携講義「自治体行政特論」	・・・	28
(3)	審議会、委員会委員への参画	・・・	30
5	地域の大学との連携		
(1)	三重大学生物資源学部との連携	・・・	35
(2)	三重大学教育学部家政教育コースとの連携	・・・	35
6	学生ボランティア活動、地域連携講義の促進による教育の充実		
(1)	地域連携サポーター制度	・・・	37
(2)	津市消防団学生機能別消防団員	・・・	38
(3)	三重短期大学大津波想定避難訓練	・・・	38
(4)	513 BAKERYとの連携	・・・	39
(5)	津ぶぞろいフェス	・・・	39
(6)	美化デー	・・・	40
II	資料		
1	施設開放	・・・	41
2	三重短期大学地域問題研究所の研究一覧	・・・	43
3	平成28年度三重短期大学出前講座 テーマ一覧表	・・・	48

本学は、津市が設置する公立短期大学として、従来から「地域に開かれた大学」を目指してきた。大学の理念にも「地域貢献の理念」を掲げて、「津市が設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え生涯教育の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する」ことを大学の責務として謳っている。この地域貢献の理念を実現するため、2008年4月に、地域連携及び地域貢献事業を所掌する総合窓口として「地域連携センター」を設立し、教員のセンター長の他に担当の事務職員が配置された。

「地域連携センター」は、設置目的のなかに、「三重短期大学は、少子高齢化時代の福祉の充実、生涯学習ニーズの高まり、情報化の高度展開など地域の抱える課題を常に念頭において、地域社会が求める人材の養成ばかりでなく、産学官連携、自治体の政策課題等の研究、地域の生涯学習との連携などに取り組むことを通じて、地域社会や住民との連携・交流を重視し、市民文化の向上と地域・産業の活性化に貢献することをめざしてまいります」と宣言するとともに、「生涯学習機会の提供」、「高等学校との連携」、「産学官連携の推進」、「市政との連携」、「地域の大学との連携」、「学生ボランティア活動の支援」を所掌事業として掲げている。

生涯学習のための教育プロジェクトとして、本学では「オープンカレッジ」と「地域連携講座」を開講している他、「出前講座」も行っている。「オープンカレッジ」は、本学の教員が講師となって市民の方に大学の講義を気軽に体験していただくことを狙いとして、7月から11月に、毎月1回、土曜日に2講座ずつ開催する連続講座である。「地域連携講座」は、学外から講師を招き、本学の教員がコーディネーターとなって、地域の身近な話題を市民の方に専門家が分かりやすく解説することを狙いとして、年に2回開催している。「出前講座」は、本学教員の研究や社会活動の中から講演可能なテーマを事前に設定し、市民の要望に応じて、教員が出向いて講演・解説などを行うものである。概ね15名程度以上の参加が見込めるグループ・団体が開催する三重県内の集まりを対象としている。いずれの講座も、年々受講者が増えており、市民の間に定着してきたと言える。

本学は、2008年3月に三重県立亀山高校と初めて高大連携協定を締結したのち、2010年3月に三重県立津商業高校と、同6月に三重県立相可高校と、2012年1月に三重県立みえ夢学園高校、三重県立久居高校と高大連携協定を締結し、現在協定締結校は5校となっている。一方、株式会社三重銀総研から資金を得て、三重銀総研と本学の共催で、学生を対象とした「小論文コンクール」を2007年から毎年開催している。学生からの応募数が増加してきており、学生の間に定着してきている。「政策研究・研修」は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、自治体職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決に当たるとともに、より戦略的な政策の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的としており、連携センター設立当初から実施している事業である。

2015年度に文科省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に三重大学の事業が採択され、本学もこの事業協力機関として参加するとともに、三重県内の14高等教育機関と県は、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現するため、「高等教育コンソーシアムみえ」を設立し、本学も一定の役割を果たしている。

このように地域連携センターの事業は年々拡大してきているが、それを持続可能なものにするには事業を支える組織の強化が不可欠である。今後は、この点への取り組みが課題となるように思われる。

I 平成28年度 地域連携事業の概要

地域連携センターを中心に、本学の地域連携の6つの柱のもと、平成28年度は次のような取組を進めた。

三重短期大学地域連携センター

本学では、1952(昭和27)年の開学以来、地域問題の研究や公開講座の開講など地域に開かれた大学づくりを進めてきたが、2008(平成20)年、この地域への貢献、地域との連携を組織的かつより積極的に進めるため地域連携センターを設置し、センター長と事務局に専任職員を配置するとともに、学内には地域連携委員会を立上げた。

その際、本学が当面実施すべき地域連携事業の取組を次の6つに整理した。

(1) 生涯学習機会の提供

市民のニーズを把握し、学科の特性に応じて教養的なものからより専門的なものまで多様な地域連携講座や公開講座などの教育プロジェクトを提供するなど生涯学習機会の提供を図る。

(2) 高等学校等との連携

より高いレベルの教育を受けることを希望する高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高大連携講座など三重県内の高等学校等との相互の協力・連携事業を推進する。

(3) 産学官連携の推進

教育内容をより充実し、社会の要請に応えることとするため、企業やNPOとの連携を推進するとともに、企業や団体などのニーズに即した受託研究等を推進する。

(4) 市政との連携

津市や地域の自治体が抱える政策課題について、教員と自治体職員が共に調査・研究を行い、課題解決と自治体職員の人材育成を目指す「政策研修」を実施するなど津市が直面している諸課題に対応し、市の発展に資するため、市政のシンクタンクとしての機能の強化を図る。

(5) 地域の大学との連携

教育・研究活動の一層の向上を図り、また、更なる地域社会の発展、貢献のため、地域の大学間の学術交流や協力・連携を強化する。特に、市の4つの大学、短期大学の特性を活かした連携を進めることを目指す。

(6) 学生による地域連携

地域課題を常に意識した教育を追求し、ボランティア活動の促進、フィールドワークの拡充などを通して地域問題への関心の喚起により将来の地域リーダーの育成を目指す。

1 生涯学習機会の提供

本学では、平成19年度から津市元気づくり事業の一環として地域連携講座を開講、また平成24年度より、本学の講義を多くの方に体験していただくことを目的に「オープンカレッジ」、「出前講座」を開設した。

さらに、三重県生涯学習センターによる県下高等教育機関の連携事業「みえアカデミックセミナー」にも積極的に参加し、教育研究の成果を市民に還元している。

また、本学の通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される科目等履修生制度も多く利用があった。

(1) オープンカレッジ

市民の方が大学の講義を気軽に体験できるよう、引き続きオープンカレッジを開設した。

月1回2講義を5か月間、本学教員がアラカルト形式にて実施し、全10講義のうち8講義以上を受講した受講者に修了証書を発行した。

ア 「かるしお」～減塩のすすめ～

- ① 開催日時 平成28年7月2日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 「かるしお」とは食事の塩を軽くすること、つまり減塩のことをいいます。減塩と聞くと「今さら?」「もう実行している」と思われるかもしれませんが、実際に生きていくために必要な量は1.5g程度であることをご存じでしょうか。減塩がもたらす効果は非常に大きいものです。みなさんとともに、家庭で出来る「かるしおレシピ」や加工食品、外食での「かるしお」について考えてみました。
- ④ 参加者数 71名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 准教授 駒田 亜衣



イ これからの介護と医療はどうなるか

- ① 開催日時 平成28年7月2日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 安心して暮らすことができるまちづくりに向けて、介護や医療をめぐる政策動向や制度改正の状況をわかりやすくお伝えしました。
- ④ 参加者数 70名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 教授 長友 薫輝



ウ 日本の唱歌とスコットランド民謡

- ① 開催日時 平成28年8月6日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 明治時代初期に編纂が始まった『唱歌集』には、「蝶々」や「霞か雲か」など、欧米の歌曲が数多く採用され、愛唱されてきました。我々になじみ深い歌の中から、スコットランドの詩人ロバート・バーンズの作品をもとにした「蛍の光」と「故郷の空」をとりあげ、その受容と変容を考察しました。
- ④ 参加者数 51名
担当教員 法経科 教授 村井 美代子



エ インターネットとセキュリティ

- ① 開催日時 平成28年8月6日(土)午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 スマートフォンやタブレット端末の普及により、インターネットの利用はこれまで以上に日常的なものになりました。
それにともない、インターネットの利用における情報セキュリティ対策の重要性が高まっています。
本講座では、インターネットの仕組みを学び、それに加えて、インターネットを安全に利用するための情報セキュリティ対策を紹介します。
- ④ 参加者数 56名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 准教授 笠 浩一郎



オ マビキと捨て子の間

- ① 開催日時 平成28年9月3日(土)午後1時30分～午後3時
- ② 会場 45教室
- ③ 概要 日本の社会において、子供は保護される対象であると同時に遺棄される存在でもありました。墮胎や嬰兒殺というマビキ慣行から捨て子、そして母子心中へという遺棄の姿の変遷と、江戸期の捨て子禁令である「生類憐れみの令」、明治期の棄児救育、さらに現代の赤ちゃんポストに至る保護との重なり合いを歴史の中から探りました。
- ④ 参加者数 49名
- ⑥ 担当教員 法経科 教授 茂木 陽一



カ アベノミクスについて

- ① 開催日時 平成28年9月3日(土) 午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 アベノミクスについて、経済学者においても賛否両論が入り乱れている。経済学の立場から、アベノミクスの狙いと、その課題についてどう争点になっているのかを紹介しました。
- ④ 参加者数 58名
担当教員 法経科 准教授 金江 亮



キ 健康づくりのための食生活にむけて～食事情あれこれ～

- ① 開催日時 平成28年10月1日(土) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 近年、生活環境の変化や食生活の多様化などが原因となる生活習慣病は、増加の一途をたどり、食による健康保持・疾病予防の必要性が高まっています。今回は、近年の食に関する調査結果をもとに我々を取り巻く食生活の現状や健康づくりのための食品選択のポイントなどを紹介しました。
- ④ 参加者数 60名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 助教 飯田 津喜美



ク 六法を引いてみよう

- ① 開催日時 平成28年10月1日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 現代社会において、法は、私たちの生活の中に深く入り込んでいます。そこで、ある程度の法的知識を身につけておくことは非常に大切なことです。とはいっても、六法をめくってみると、文字ばかりで、なんだか難しそうな文章が並んでいるし、読む気にもならないかも知れません。本講座では、そのとっつきにくそうな六法を実際に引いてみて、六法の使い方を学んでいただきました。パラパラとページを繰ってみて、面白い発見ができたかもしれません。
- ④ 参加者数 57名
- ⑤ 担当教員 法経科 准教授 藤枝 律子



ケ マイナンバー制度の民間活用

- ① 開催日時 平成28年11月5日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 平成28年になり、日本において、マイナンバー制度の運用が本格

化しました。この制度に関しては、当該制度と関連する個人情報の漏洩、などの視点から、非常に活発な議論がなされています。このマイナンバー制度は、税務などの行政面だけでなく、民間オンライン取引など、民間部門での活用も今後本格化する予定です。本講座では、以上のようなマイナンバー制度の民間活用について、わかりやすく解説しました。

- ④ 参加者数 48名
- ⑤ 担当教員 法経科 准教授 大畑 智史



コ 少年非行と少年法

- ① 開催日時 平成28年11月5日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 巷間にいわれる少年非行の増加、凶悪化、低年齢化は事実でしょうか？ 本講では、少年非行と少年法の現状を検証すると同時に、少年法適用年齢を18歳未満に引き下げる改正問題について検討しました。
- ④ 参加者数 42名
- ⑤ 担当教員 法経科 教授 楠本 孝



(2) 地域連携講座

ア 乱歩の三重、乱歩の名古屋

- ① 開催日時 平成28年6月25日(土) 午後1時30分～午後3時30分
- ② 会場 アストホール(アスト津4階)
- ③ 内容 日本の推理小説、探偵小説の祖・江戸川乱歩(本名・平井太郎)は

三重県名張に生まれ、亀山、名古屋で成長しました。平井家は乱歩の祖父の代まで津・藤堂家の藩士であり、本籍、墓所も津市内にありました。昭和初頭のモダン都市・東京の作家というイメージが強い乱歩ですが、鳥羽の造船所に勤務し、岩田準一と交流を深めるなど、三重とは強い結びつきがあります。

2015年は乱歩没後50年でした。亡くなって半世紀が経過しても、その魅力は色あせず、乱歩フリークと呼ばれる根強いファンも依然存在します。乱歩作品のどこがそんなに人々を惹きつけるのか、作品のどこに故郷・三重や少年時代を過ごした名古屋を探ることができるのか、興味はつきません。

今回の連携講座では乱歩に詳しい小松史生子先生をお迎えし、乱歩ゆかりの地で乱歩作品の魅力をたっぷり語っていただきました。

- ④ 参加者数 70名
- ⑤ 講師 小松 史生子(金城学院大学 教授)
小笠原 純一(岩手県大槌町職員)
- ⑥ 担当教員 法経科 教授 竹添 敦子



イ ジュニアスポーツ選手の栄養について

- ① 開催日時 平成28年11月19日(土) 午後1時30分～午後3時30分
- ② 会場 アストホール(アスト津4階)
- ③ 内容 国際大会でメダルを取るような選手たちは、地道なトレーニングを日々積み重ねて強くなっています。食事も同じです。日々何を食べてきたかの結果として体が変わってくる。トレーニングと食事はまさに車の両輪。それだけに、しっかり体をつくらなければならない成長期のジュニアアスリートにこそ、食事に対する基本的な考え方を身につけてもらいたいのです。

運動選手の栄養サポートは3方向同時に行うことが大事だと考えています。選手、指導者、そして、保護者（もしくは調理担当者）の3者です。いずれの理解が欠けても栄養サポートはうまく成果をあげることができませんし、3者が協調して理解を深めていけば、よい循環がまわりだし、成果はより大きなものになります。スポーツ栄養の専門家と連携し、選手の食環境を整えてあげることは指導者の役割のひとつだと思います。“食生活のコーチは保護者です”とあって理解を求めています。選手にだけ行動変容を求めても難しい。

そこで今回、保護者にも一緒に考えていただきました。

- ④ 参加者数 53名
- ⑤ 講師 田口 素子（早稲田大学 スポーツ栄養研究所 所長）
- ⑥ 担当教員 生活科学科 教授 山田 徳広



（3）みえアカデミックセミナー2016 ～知のひろがりそれは希望への一歩～

より高度な学習機会の提供を目指すとともに、県内の各高等教育機関の研究活動を紹介し、高等教育機関への理解を深めてもらうことを目的として、夏季期間に県総合文化センターを会場に各高等教育機関独自の研究テーマを発表する「公開セミナー」と、地域のニーズに応じて高等教育機関が地域に出向く「移動講座」がある。

平成8年に県内4年制大学による「三重6大学公開講座」としてスタートし、平成16年から、県内全ての短期大学、高等専門学校も参画し15の高等教育機関による公開セミナーを「みえアカデミックセミナー」としてリニューアルした。（※担当者会議資料（三重県生涯学習センター作成）等から）

- ① 開催日時 平成28年7月12日（火）午後1時30分～午後3時00分
- ② 会場 三重県文化会館 レセプションルーム
- ③ 内容 講演 演題 ユニバーサルデザインのまちづくりを考える
～暮らしやすいまちにするために～
- ④ 概要 「住みやすいまち」には誰でも住みたいと思うものです。でも、住

みやすいまちとは、一体どのような所でどうしたら作っていただけるのでしょうか。「ユニバーサルデザイン」という言葉をキーワードに、法律や現在の取り組みを紹介し、社会のしくみから物のデザインまで具体的に何が必要なのかを考えました。

- ⑤ 参加者数 70名
- ⑥ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織

(4) 出前講座

本学教員の研究や社会活動のなかから講演可能なテーマを事前に設定し、要望に応じて地域に出向き、講演・解説などを行う出前講座を2012（平成24）年度に開設した。（内容は「資料」の平成28年度三重短期大学出前講座テーマ一覧表参照）

ア 食べ物とがんについて

- ① 開催日時 平成28年5月16日（月）午後2時30分～午後3時30分
- ② 会場 津税務署
- ③ 参加者数 75名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 伊藤 貴美子

イ あらすじで読みなおすイギリス小説

- ① 開催日時 平成28年6月22日（水）午前10時～午前11時30分
- ① 会場 四日市市楠町五味塚 2042-1
- ② 参加者数 36名
- ③ 担当教員 法経科 教授 村井 美代子

ウ 障害者差別解消法について

- ① 開催日時 平成28年7月4日（月）午前9時30分～午前11時30分
- ② 会場 サンワーク津
- ③ 参加者数 96名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織

エ 心理学実験

- ① 開催日時 平成28年7月6日（水）午後4時40分～
- ② 会場 鈴鹿厚生病院
- ③ 参加者数 25名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 東福寺 一郎

オ 時代小説は庶民をどう描いているか

- ② 開催日時 平成28年7月26日（火）午前9時30分～午後11時30分
- ③ 会場 村主公民館

- ④ 参加者数 12名
- ⑤ 担当教員 法経科 教授 竹添 敦子

カ 「障害者差別解消法」について

- ① 開催日時 平成28年7月27日(水) 午後2時～午後3時
- ② 会場 北立誠小学校
- ③ 参加者数 23名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織

キ 食べ物とがんについて

- ① 開催日時 平成28年7月28日(木) 午後2時～午後3時30分
- ② 会場 飯高総合開発センター
- ③ 参加者数 28名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 伊藤 貴美子

ク 高齢者の住まい

- ① 開催日時 平成28年7月29日(金) 午前10時～午前11時30分
- ② 会場 北勢市民会館
- ③ 参加者数 23名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 木下 誠一

ケ 障がい者の人権について

- ① 開催日時 平成28年8月5日(金) 午後1時30分～午後4時30分
- ② 会場 河芸総合支所『防災研修室』
- ③ 参加者数 25名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織

コ 外国人の人権「外国人との共生について」

- ① 開催日時 平成28年8月12日(金) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 津リージョンプラザ 健康教室
- ③ 参加者数 17名
- ④ 担当教員 法経科 教授 楠本 孝

サ 障害者差別解消法について

- ① 開催日時 平成28年8月18日(木) 午前10時40分～午前12時
- ② 会場 県立稲葉特別支援学校
- ③ 参加者数 22名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織

シ 男女共存社会のすすめ

- ① 開催日時 平成28年8月19日(金) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 津リージョンプラザ 健康教室
- ③ 参加者数 23名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 東福寺 一郎

ス 落語に学ぶ心理学

- ① 開催日時 平成28年8月21日(日) 午後3時～午後5時
- ② 会場 百合が丘東第3集会所
- ③ 参加者数 24名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 東福寺 一郎

セ 時代小説は庶民をどう描いているか

- ① 開催日時 平成28年8月27日(土) 午前10時～午前12時
- ② 会場 亀山市中央公民館
- ③ 参加者数 33名
- ④ 担当教員 法経科 教授 竹添 敦子

ソ 障害者差別解消法の理念と人権の現状

- ① 開催日時 平成28年9月28日(水) 午後5時30分～午後7時10分
- ② 会場 美里総合支所
- ③ 参加者数 23名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織

タ 障害者差別解消法について

- ① 開催日時 平成28年9月30日(金) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 高茶屋市民センター
- ③ 参加者数 50名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織

チ 糖尿病と食事と運動の話し

- ① 開催日時 平成28年10月4日(火) 午後3時～午後4時
- ② 会場 津税務署
- ③ 参加者数 70名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 山田 徳広

ツ 伊勢商人の歴史

- ① 開催日時 平成28年11月2日(水) 午後1時30分～午後3時30分

- ② 会 場 三重県総合文化センター
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 法経科 教授 茂木 陽一

テ 「健康食品」を考える

- ① 開催日時 平成28年11月7日（月）午後2時～午後3時30分
- ② 会 場 松阪市朝見公民館
- ③ 参加者数 50名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 伊藤 貴美子

ト 働く前に知っておきたい社会保障のこと

- ① 開催日時 平成28年11月16日（水）午前9時30分～午前11時
- ② 会 場 朝明高等学校
- ③ 参加者数 25名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 長友 薫輝

ナ 伊勢商人の歴史

- ① 開催日時 平成28年11月18日（金）午前9時30分～午前11時30分
- ② 会 場 南が丘公民館
- ③ 参加者数 25名
- ④ 担当教員 法経科 教授 茂木 陽一

ニ 健康づくりのための家庭料理を学ぼう

- ① 開催日時 平成28年12月8日（木）午後1時30分～午後2時30分
- ② 会 場 津市市民活動センター・研修室
- ③ 参加者数 32名
- ④ 担当教員 生活科学科 助教 飯田 津喜美

ヌ 糖尿病と食事と運動の話し

- ① 開催日時 平成28年12月13日（火）午前10時～午前11時30分
- ② 会 場 鈴鹿市郡山町 郡山公民館
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 山田 徳広

ネ 昔話を比べてみよう

- ① 開催日時 平成29年2月19日（火）午後1時15分～午後2時15分
- ② 会 場 津市ふれあい会館
- ③ 参加者数 60名

④ 担当教員 法経科 教授 竹添 敦子

(5) 講座開催一覧

区分	テーマ	開催日	会場	参加者 (人)
オープン カレッジ	「かるしお」～減塩のすすめ～	7月2日(土)	45番教室	71
	これからの介護と医療はどうなるか	7月2日(土)	45番教室	70
	日本の唱歌とスコットランド民謡	8月6日(土)	45番教室	51
	インターネットとセキュリティ	8月6日(土)	45番教室	56
	マビキと捨て子の間	9月5日(土)	45番教室	49
	アベノミクスについて	9月5日(土)	45番教室	58
	健康づくりのための食生活にむけて～食事情あれこれ～	10月3日(土)	45番教室	60
	六法を引いてみよう	10月3日(土)	45番教室	57
	マイナンバー制度の民間活用	11月7日(土)	45番教室	48
	少年非行と少年法	11月7日(土)	45番教室	42
地域連携講座	乱歩の三重、乱歩の名古屋	6月25日(土)	アストホール	70
	ジュニアスポーツ選手の栄養について	11月19日(土)	アストホール	53
みえアカデミックセミナー	ユニバーサルでざいんのまちづくりを考える	7月12日(火)	三重県文化会館レセプションルーム	70
出前講座 (高大連携)	食べ物とがんについて	5月16日(月)	津税務署	75
	あらすじで読みなおサイギリス小説	6月22日(水)	四日市市楠町五味塚 2042-1	36

事業を除く)	障害者差別解消法について	7月4日(月)	サンワーク津	96
	心理学実験	7月6日(水)	鈴鹿厚生病院	25
	時代小説は庶民をどう描いているか	7月26日(火)	村主公民館	12
	「障害者差別解消法」について	7月27日(水)	北立誠小学校	23
	食べ物とがんについて	7月28日(木)	飯高総合開発センター	28
	高齢者の住まい	7月29日(金)	北勢市民会館	30
	障がい者の人権について	8月5日(金)	河芸総合支所『防災研修室	25
	外国人の人権「外国人との共生について」	8月12日(金)	津リージョンプラザ 健康教室	17
	障害者差別解消法について	8月18日(木)	県立稲葉特別支援学校	22
	男女共存社会のすすめ	8月19日(金)	津リージョンプラザ 健康教室	23
	落語に学ぶ心理学	8月21日(日)	百合が丘東第3集会所	24
	時代小説は庶民をどう描いているか	8月27日(土)	亀山市中央公民館	33
	障害者差別解消法の理念と人権の現状	9月28日(水)	美里総合支所	23
	障害者差別解消法について	9月30日(金)	高茶屋市民センター	50
	糖尿病と食事と運動の話	10月4日(火)	津市桜橋2丁目99 津税務署	70
	伊勢商人の歴史	11月2日(水)	中央公民館	25
	「健康食品」を考える	11月7日(月)	松阪市朝見公民館	50
働く前に知っておきたい社会保障のこと	11月16日(水)	朝明高等学校	25	

	伊勢商人の歴史	11月18日(金)	南が丘公民館	28
	健康づくりのための家庭料理を学ぼう	12月8日(木)	津市市民活動センター・研修室	32
	糖尿病と食事と健康の話	12月13日(火)	鈴鹿市郡山町 郡山公民館	30
	昔話を比べてみよう	2月19日(日)	津市ふれあい会館	60
出前講座 (高大連携 事業)	味噌汁中の塩分量を調べよう	10月24日(月)	相可高等学校	80
	政治とは何か、行政とは何か	2月15日(水)	久居高等学校	15

(6) 科目等履修生制度

科目等履修生制度は、通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される制度で、本学では平成8年度より実施している。

満18歳以上を対象に、前・後期で受講生を募って書類審査と面接で選抜する。科目等履修生になると図書館等の施設が本科生と同様に使用可能となる。ただし、入学検定料と1単位当たりの費用が必要となる。

平成28年度の科目等履修生は、前後期あわせて20名が受講した。

受講科目は下表のとおり英語Iや英会話などの語学系科目から法経科、生活科学科の専門科目まで幅広く44科目が選択された。

受講者は、会社等に勤めながら自分のキャリアアップのため知識を得ようとする一方、現在の職や趣味などを更に深めようと関係する科目を履修される方、また、資格取得に備え所要の単位を取得される方など志願理由は様々であった。

(前期)

科目	単位	人数
障害者福祉論	2	1
児童福祉論	2	1
医療福祉論	2	1
心理学概論	2	2
発達心理学	2	1
社会心理学	2	1
カウンセリング論	2	1
民法Ⅰ	4	1
家族法	4	2
刑法	4	1
刑事訴訟法	4	1
行政学	4	1
憲法訴訟論	2	1
社会福祉論	2	2
日本国憲法Ⅰ	2	1
病理学	2	1
臨床医学概論Ⅱ	2	1
生命科学	2	1
教育の基礎理論	2	1
哲学	2	1

(通年)

科目	単位	人数
英語Ⅰ	2	3
中国語Ⅱ	2	1
英会話	2	1
総合英語	2	1
仏語Ⅰ	2	1

(後期)

科目	単位	人数
社会調査論	2	1
ヘルスカウンセリング論	2	1
日本国憲法Ⅱ	2	1
社会福祉行財政論	2	1
行動の理論	2	1
認知の科学	2	1
居住福祉論	2	1
居住設備学	2	1
建築構法	2	1
地域環境学	2	1
管理栄養特殊講義	2	1
民法Ⅲ	2	2
刑事訴訟法	4	1
国際経済論	2	1
住生活設計Ⅰ	2	1
人的資源管理論	2	2
差別と人権	2	1
歴史学	2	2
文学Ⅱ	2	1

2 高等学校等との連携

本学では、より高いレベルの教育を受けたいと願う高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高等学校との相互協力や連携事業を推進する「高大連携」を、地域連携事業のひとつの柱に位置づけている。

本年度は、連携協定を締結している、三重県立亀山高等学校、相可高等学校、津商業高等学校、久居高等学校及びみえ夢学園高等学校との「高大連携」の取組を実施した。

また、高等学校を対象とした連携以外にも、本学附属図書館による市内の中学校への図書指等業を通じた連携にも取組んでいる。

(1) 高大連携校との高大連携事業

高大連携校と、それぞれの協定に基づき、次の事業を行った。

ア 相可高等学校との出前講座（会場：相可高等学校）

- ① 日 時 平成28年10月24日（月）午前10時40分～午前12時30分
午後1時40分～午後3時30分
- ② 講 師 生活科学科 助教 飯田津喜美
- ③ 内 容 味噌汁中の塩分量を調べよう
- ④ 対 象 相可高等学校1・2年生80名

イ 相可高等学校との出前講座（会場：三重短期大学）

- ① 日 時 平成28年12月7日（水）午前10時00分～午後1時
- ② 講 師 相可高校 食物調理科 園部かしこ教諭
- ③ 内 容 クリスマス用ロールケーキの作り方
- ④ 対 象 三重短大生活科学科食物栄養学専攻2年生 53名

ウ 久居高等学校への出前講座

- ① 日 時 平成29年2月15日（水）午後1時30分～午後3時
- ② 講 師 法経科 教授 立石 芳夫
- ③ 内 容 政治とは何か、行政とは何
- ④ 対 象 同校2年生15名

(2) 一身田中学校図書館ボランティア活動

附属図書館は、平成17年10月から、一身田中学校の要請もあって、附属図書館司書と図書館ボランティアの有志学生により、書架整理、館内ディスプレイ、本の装備、おすすめ本の紹介等の図書館支援を行っている。今年度からは、新たに本学学生主催のワークショップ「みえたん・ラボ」を開催した。その他、教育支援課主催の市内学校図書館関係者向け「図書館サポート講座」へ司書を派遣している。

(主な活動内容)

- 4月 ・クラブ体験を通じた図書館ボランティアの勧誘活動等
- 5月 ・第1回ボランティア会議/前期定例会 毎週水曜日
 - ・一身田中学校への訪問や活動者へのミーティングを通じた活動準備
 - ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：月・木曜日(2名)
- 6月 ・みえたん・ラボ開始
 - ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：水・木・金曜日(9名)
 - ・図書館サポート講座 内容：ブックコート・マイブック作り
- 7月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：月・水・木曜日(9名)
 - ・第2回、第3回ボランティア会議
- 8月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：水曜日(3名)
 - ・社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」8月24日(水)参加
[実践概要発表][交流広場(ブース展示)]
内容：「みえたん・ラボ～地域の学校図書館支援活動～」
[児童・生徒向け体験コーナー]
内容：「みんなで『ミッケ!』」
- 9月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：水曜日(7名)
- 10月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：月・水曜日(6名)
 - ・後期定例会 毎週木曜日
 - ・図書館サポート講座 内容：ブックトーク
- 11月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：火・水曜日(3名)
 - ・第4回ボランティア会議
- 12月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：水・木曜日(10名)
 - ・第5回ボランティア会議
- 1月 ・第6回ボランティア会議
 - ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：水・木曜日(6名)
- 2月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：水曜日(6名)
- 3月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：水曜日(4名)
 - ・新2年生会議

3 産学官連携の推進

平成19年1月、本学と株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研は、学術研究の振興とその成果の地域社会への活用並びに組織運営に関する協働を推進するために産学連携を強化し、相互の発展及び地域の発展に貢献することを目的とする「産学官連携に関する包括協定」を締結した。

今年度も、この協定に基づき、学生を対象とした小論文・作品コンクールを引き続き開催したほか、三重銀総研より講師を招いた「企業論」の開講等の連携事業を実施した。

また、シーズ集「みえたんの種」を活用し本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

(1) 株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研との産学連携

産学包括協定に基づき、次の事業を実施した。

ア 三重短期大学・三重銀総研主催小論文・作品コンクール

株式会社三重銀行、株式会社三重銀総研における地域貢献、本学における教育研究、及び地域貢献の推進を目的に、小論文・作品コンクールを実施した。

① 趣旨

三重短期大学と三重銀総研の地域貢献を目的とする産学連携推進事業の一環として、学生の新鮮な知性・感性を活かした小論文・作品コンクールを実施した。

② テーマ

『「地方創生」～わたしが考える地域の活性化～』

③ 応募資格

三重短期大学在学学生（科目等履修生を含む）。共同執筆による応募も可

④ 応募規定

- ・ 応募は1人（共同執筆の場合は1グループ）1作品のみ
- ・ 日本語で書かれた未発表のものに限る
- ・ 文字数は4,000字程度

⑤ 募集期間

平成28年6月30日～平成28年10月11日

⑥ 選考委員

委員長	三重短期大学	学長	東福寺 一郎
副委員長	(株)三重銀総研	代表取締役副社長	筒井 真
委員	三重短期大学	法経科教授	竹添 敦子
委員	三重短期大学	生活科学科准教授	武田 誠一
委員	三重短期大学	生活科学科准教授	駒田 亜衣
委員	三重短期大学	生活科学科助教	米田 武志

⑦ 応募作品（タイトル名）

- ・ “防災対策 東海、東南海、南海地震へ備えるために”
- ・ 「経済格差が生む教育格差」

- ・女性の活躍推進と地方創生
- ・「現代社会と地域コミュニケーションについて」
- ・「地方創生」～私が考える地域の活性化～
「非正規大国である日本で働く人々の労働の質・生活の質の底上げの為の改善策について」
- ・未婚率上昇から考える活性化
- ・「学校を核」とした住民主体の地方創生
ー三重県いなべ市藤原町「立田地区」での取組を通してー
- ・犯罪の連鎖から身を守るために
- ・「地方創生」～わたしが考える地域の活性化～「伊勢型紙の魅力で地域活性化を」
- ・漁村ツーリズムについて
- ・地域活性のカギはお年寄りにアリ！
- ・漫画・アニメを活用した地域活性化の可能性
- ・駅前商店街再開発について
- ・子どもの未来について考える
- ・よさこいで地域活性化を目指す
- ・芸術文化による地域の活性化
- ・地方創生するための足りないものと必要なもの
- ・ふるさと納税について
- ・「大台町の過疎化」
- ・無医村となった被災地 田野畑村を考える
- ・「観光立国の推進による日本の経済・地域の活性化」
- ・日本の人口問題について
- ・「少子高齢化に伴う労働者の苦悩と日本に起こる危機への打開策による地方創生法」
- ・「地方創生」～わたしが考える地域の活性～
- ・「ふるさと納税と地方創生」
- ・教育格差縮小を実現させるには
- ・「買物難民」と地方公共交通機関
- ・「食」で地域活性化をはかる
- ・職業訓練による地方創生の可能性について
- ・子供の貧困と共助社会
- ・子どもの貧困
- ・メディアによる地方創生～三重県の魅力・情報発信～
- ・子供の貧困と社会的養護
- ・インクルーシブ教育の可能性について
- ・地域創生～戦争再発防止に向けた地域社会～
- ・少子高齢化と労働力不足について
- ・過疎化の問題

- ・地方創生への提言
- ・「地方創生」～わたしが考える地域の活性化～
－2つの視点から地域活性化を考える－
- ・三重県の伝統食材「シロミトリ豆」を用いたレシピ開発～みえたんライス～
- ・黒糖バナナ寒天 (全41作品)

⑧ 選考結果

賞	氏名	タイトル	学科
最優秀賞	前川 明男	「学校を核」とした住民主体の地方創生ー三重県いなべ市藤原町「立田地区」での取組を通してー	法経科第2部 2年
学長賞	山口 由貴	職業訓練による地方創生の可能性について	法経科 経商コース 2年
優秀賞	間宮 宝	漁村ツーリズムについて	生活科学科 生活科学専攻 1年
	浮田 翼	子供の貧困と共助社会	法経科第2部 2年
佳作	田中 治代	「伊勢型紙の魅力で地域活性化を」	法経科第2部 2年
	杉山 陽菜	漫画・アニメを活用した地域活性化の可能性	法経科 経商コース 2年
	前田 花梨	「買物難民」と地方公共交通機関	法経科 経商コース 2年
	村田英里紗	黒糖バナナ寒天	生活科学科 食物栄養学専攻 2年

⑨ 表彰式 ※本学「大学祭」の中で

日時 平成28年11月19日(土) 午後4時～午後5時

場所 三重短期大学 体育館

表彰者 三重短期大学 学長 東福寺 一郎

株式会社 三重銀総研 代表取締役副社長 筒井 真

司 会 三重短期大学法経科 教授 楠本 孝



(表彰式)

イ 三重銀総研より講師を招いた講義

① 講義科目 企業論

(専修第二(経済・経営)分野 前期 火曜日9-10限目 受講者数38名)

② 講師 山川 敏

(株式会社三重銀総研 コンサルティング部リーダー 主任コンサルタント)

③ 講義のねらい

㈱三重銀総研から講師を招き、日々の企業コンサルから得た経験をもとに、会社を運営していくうえで大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点について、社会人になってからも役立つような実践的な内容で講義いただいた。

④ 授業内容

- ・ 未来を予測し仮説をたてる (1)起業の意義と外部環境把握
- ・ 同 (2)外部環境把握
- ・ お客様の満足を考える
- ・ 事例研究
- ・ 起業家の成功要因を考える (3つの側面からの考察)
- ・ 自分研究 (自分の特長、やってみたいこと)
- ・ 経営理念の立て方 (基本理念と行動理念)
- ・ マーケティングと経営戦略 (1)意義
- ・ 同 (2)勝つための仕組みづくり
- ・ 決算書の見方と資金繰り
- ・ ビジネスプランの作成 等

(2) 三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用

教員の研究業績や社会的活動を載せたシーズ集「みえたんの種」や地域連携センターのホームページを活用して、本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

※ 法経科楠本孝教授(地域連携センター長)の内容

楠本 孝 (くすもと たかし)

職 名	法経科 教授
授業科目	刑法、刑事政策
キーワード	犯罪、非行、刑罰、保護処分、治安、社会復帰、社会的排除、社会統合
研究テーマ	刑法解釈方法論、差別表現の刑事規制、触法精神障害者問題
研究テーマの 応用例	<ul style="list-style-type: none"> ・少年非行の分析と対策 ・精神障害者の触法行為と対策 ・外国人犯罪の分析と対策 ・ヘイト・スピーチと対策
最近の研究業績	<p>[著書]</p> <p>『刑法解釈の方法と実践』 現代人文社 2003年</p> <p>[論文]</p> <p>「ドイツにおけるヘイト・スピーチに対する刑事規制」法と民主主義 485号 2014年／「集団侮辱罪と民衆煽動罪」龍谷大学矯正保護総合センター研究年報2号 2012年／「裁判員制度のもとでの死刑」日本の科学者 513号 2010年／「外国人登録制度の崩壊と新たな在留管理制度への再編」法と民主主義 441号 2009年／「裁判員制度の下での精神障害者」三重法経 135号 2009年／「外国籍の子どもの就学義務化をめぐる法的諸問題」日本の科学者 488号 2008年／「自治体の外国人統合政策」三重法経 129号 2007年／「『再犯予測からリスクマネジメントへ』で問題は解決するのか？」三重法経 124号 2004年／「保安処分論議の今日的総括」法律時報 74巻 2号 2002年</p> <p>[その他]</p> <p>「第2回 津市における来日外国人の生活実態調査報告書」地研年報 15号 2010年／「津市における来日外国人の生活実態調査報告書」地研年報 14号 2009年／「津市における外国人児童・生徒の就学状況調査報告書」2008年3月</p>
最近の社会的活動	・2007年 津市青少年問題協議会委員（現在に至る）
メッセージ	<p>犯罪の原因は一様ではありませんが、社会的に排除され、社会参加の機会を奪われている人々が犯罪や非行に至りやすいということは否定できません。従って、そうした人々を社会に統合する施策こそが犯罪・非行対策上重要である、という観点から研究を進めています。</p>

4 市政との連携

本学では、従来から津市立の公立短期大学として地域振興等の諸課題について、教員の各種審議会等への参画や市教育委員会主催の市民向け講座への参加を通じて、専門的な知識や経験を活用し、市政との連携を進めてきた。

今年度は、市政の諸課題について本学教員と職員が共に調査、研究する「政策研究・研修」を一つのテーマで取り組んだほか、津市立の特性を活かし、津市を一つの事例として、市長をはじめ職員によるリレー講義で自治体行政の現状や課題等について考える「自治体行政特論」を引き続き開講した。

(1) 政策研究・研修

① 目的

地方分権が進められるなか、地方財政の厳しさや市民意識の高まりを受け、津市をはじめ多くの地方自治体で「経営型」の行政運営、効率的行政運営が進められている。

一方、大学など高等教育機関では、従来からの教育、研究に加え、地域への貢献、地域との連携が強く求められるようになり、三重短期大学においても、地域のシンクタンク機能の充実を図ることを目指し市政との連携を地域連携の一つの柱としている。

政策研究・研修は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、当該職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決にあたりるとともに、より戦略的かつ先進的な政策事務事業等の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的とする。

② 研修テーマ、指導教員及び研修生

テーマ

保育所における食事と身体状況調査等の解析（別紙2-1）

担当教員 生活科学科 准教授 駒田 亜衣
生活科学科 助手 中井 晴美

NO	氏名	所属
1	浜内 和美	四日市市こども未来部保育幼稚園課あがた保育園長
2	井川 裕子	津市健康福祉部子育て推進課主査
3	眞弓 友里	津市教育委員会事務局教育総務課栄養士
4	川北 美沙	津市健康福祉部健康づくり課栄養士

③ 研修期間

平成28年6月30日から平成29年2月23日まで

④ 主な研修内容（「研修計画」参照）

テーマ毎に分かれた研修生グループが、指導教員による指導の下、先進地視察やデータ解析等を行い、具体的施策への反映を視野に入れた調査・研究を行い、その成果を取りまとめた。

⑤ 研究・研修計画

<p>[テーマ] 保育所における食事と身体状況調査等の解析</p>	<p>担当教員 生活科学科准教授 駒田 亜衣 生活科学科助手 中井 晴美</p>
<p>テーマ解説</p>	<p>保育所で実施されてきた身体状況調査結果から、「やせ」「肥満」の割合状況などを把握するとともに、さらに3歳以上児童が昼食用に持参している米飯量のデータとあわせ、今後の食生活を検討するうえでの知見や資料を得ることを目的とする。</p> <p>津市では保育所等を対象に、身体状況調査を実施してきている。また、保育所では、園に昼食用として各自が持参している米飯量のデータもあることから、これら既存の結果を使用し、身体状況の把握や比較だけでなく、食生活の問題点も明らかにできる可能性がある。</p> <p>そこで本研究・研修では、既存のデータをもとに集計・分析を進めながら、状況把握するとともに、園児の食生活に関する問題点やよりよい給食を提供するうえでの工夫、保護者への指導など、今後の政策を考える上で必要な知見や資料を得ることを目的として実施する。</p> <p>得られた結果は、関連職種である栄養士、保育士をはじめ、可能な範囲内で保護者へ広く情報提供したい。</p> <p>なお、本政策研究の実施にあたり、三重短期大学非常勤講師 生川美江教授を共同研究分担者とする。生川教授の担当科目は「子どもの栄養」「公衆栄養学」であり、本研究をすすめるうえで助言等いただく。</p> <p>また、本学の学生で保育園への就職希望者、子どもの栄養について卒業研究を進める学生らの参加も予定している。</p>
<p>研究計画等</p>	<p>2016年7～9月 各地域で実施された身体状況調査の集約 2016年9～10月 集約データの解析 2016年11月～ 解析結果と課題検討 2017年3月まで 解析結果のまとめと報告</p>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> 津市以外の地域のデータも可能であれば解析し、比較分析を行う（ただし、解析をすすめるにあたり各施設での「やせ」「標準」「肥満」の判定基準が異なる場合があることも考慮する必要がある）。

⑥ 成果報告会

・日 時 平成29年2月23日（木）午前10時00分～午前11時00分

- ・場 所 三重短期大学管理棟 2階 演習室 1
- ・内 容 研修目的等の説明、成果発表、研修内容に関する質疑応答
- ・主な参加者

四日市市こども未来部保育幼稚園課主幹、津市健康福祉部健康医療担当参事(兼)健康づくり課長、健康福祉部子そだて推進課担当職員、津保健所主幹、津保健所主査、学長、地域連携センター長、学生部長、事務局長ほか



(成果報告会の様子)

(2) 市政との連携講義「自治体行政特論」

津市を一つの題材に地方行財政に対する学生の理解を深めることを目的として、津市の市長をはじめ課長級等の職員のリレー講義形式で実施する「自治体行政特論」を平成12年度より開講しており、平成28年度は次の内容で実施した。

当講座は、教室での講義だけでなく市議会の傍聴なども実施して地方行政の理解を深めている。

- ① 講義科目 自治体行政特論 (共通科目 前期 月曜日9-10限)
- ② 担当教員 法経科 教授 立石芳夫
- ③ 受講者数 21名

回	実施日	講義科目(キーワード)等	講師等
1	4月11日(月)	オリエンテーション	法経科 教授 立石 芳夫
2	4月18日(月)	政策の生まれ方から語る自治体経営	市長 前葉 泰幸
3	4月25日(月)	津市の教育について	教育委員会事務局 教育次長 倉田 幸則
4	5月9日(月)	スポーツの可能性	スポーツ文化振興部産業・スポーツ センター推進担当参事(兼)産業・ スポーツセンター推進室長 西口 哲司
5	5月16日(月)	津市の高齢福祉・介護保険について	健康福祉部高齢福祉・介護保険担当 参事(兼)介護保険課長 坂倉 誠
6	5月23日(月)	・津市の商業振興策と労働行政 ・企業誘致と工業振興について	商工観光部商業振興労政課長 奥山 巖 商工観光部企業誘致室長 伊藤 伸一
7	5月30日(月)	・津市のこども園整備方針 ・津市の児童虐待への対応	健康福祉部子育て推進課長 鎌田 光昭 健康福祉部こども支援課長 豊濱 博幸
8	6月6日(月)	中間まとめ	法経科 教授 立石 芳夫
9	6月7日(火) -10日(金)	津市議会傍聴	
10	6月20日(月)	都市計画について	都市計画部都市政策課長 別府 敏

11	6月27日(月)	財政～津市の財政状況を知る～	政策財務部財政課財政課財政担当主幹 野田 遊喜
12	7月4日(月)	津市の農業振興	農林水産部農林水産政策担当参事 (兼) 農林水産政策課長 藤井 孝則
13	7月11日(月)	・津市総合計画について ・ユニバーサルデザインのまちづくり	政策財務部政策課政策課調整・政策担当主幹(兼)企画員 梅本 和嗣
14	7月25日(月)	・空家等の問題への取組み ・資源循環型社会を目指して	環境部環境保全担当参事(兼)環境保全課長 木村 重好 環境部環境政策課資源循環推進担当主幹 別所 英幸
15	補講期間中	最終まとめ	法経科 教授 立石 芳夫



(前葉市長による講義)

(3) 審議会、委員会委員への参画

津市や周辺自治体が直面している諸課題について、本学教員の専門的な知識や経験を活かし、各種審議会や委員会等へ参画し市政との連携を図った。

本学教員の今年度の審議会、委員会等への参画状況は次のとおり

	氏名	委嘱先	委嘱依頼内容	期間又は期日
1	木下 誠一	三重県公共事業 総合推進本部	三重県公共事業評価審査委員会委員	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日
2	杉山 直	三重県環境生活部	三重県男女共同参画審議会委員	委嘱日～ 平成29年3月15日
3	杉山 直	放送大学学園	「卒業担当研究」非常勤講師	平成28年4月1日～ 平成29年3月28日
4	武田 誠一	学校法人 新潟福祉医療学園 日本こども福祉専門 学校	「保健医療サービス」非常勤講師	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
5	東福寺 一郎	独立行政法人大学 評価・学位授与機 構	独立行政法人大学改革支援・学位授 与機構運営委員	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日
6	富田 仁	桑名市総務課	桑名市行政不服審査会委員	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日
7	長友 薫輝	津市健康福祉部	津市健康づくり推進懇話会委員	委嘱日から2年間
8	長友 薫輝	社会福祉法人 津市社会福祉協議 会	第2次津市地域福祉活動計画推進 委員	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日
9	藤枝 律子	桑名市総務課	桑名市行政不服審査会委員	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日
10	武田 誠一	皇學館大学	「公的扶助論」非常勤講師	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
11	武田 誠一	津市教育委員会	新しい時代の公民館検討委員会委員	委嘱日～ 平成29年3月31日

12	東福寺 一郎	津市健康福祉部	津市地域自立支援協議会委員	委嘱日～ 平成 30 年 4 月 30 日
13	藤枝 律子	三重県戦略企画部	三重県個人情報保護審査会委員	平成 28 年 6 月 25 日～ 平成 30 年 6 月 24 日
14	藤枝 律子	三重県地域連携部	本人確認情報の保護に関する審議会委員	平成 28 年 6 月 25 日～ 平成 30 年 6 月 24 日
15	村井 美代子	三重県戦略企画部	三重県情報公開審査会委員	平成 28 年 6 月 1 日～ 平成 30 年 5 月 31 日
16	石原 洋介	三重県農林水産部	三重県地方卸売市場運営協議会委員	平成 28 年 7 月 1 日～ 平成 30 年 6 月 30 日
17	楠本 孝	津市教育委員会	「学校へ行こう！ In 津市（就学がイ グッス）」実行委員	平成 28 年 6 月 16 日
18	東福寺 一郎	三重県 生涯学習センター	三重県生涯学習センター運営協議 会委員	委嘱日～ 平成 30 年 3 月 31 日
19	東福寺 一郎	三重県教育委員会	三重県社会教育委員	平成 28 年 6 月 1 日～ 平成 30 年 5 月 31 日
20	東福寺 一郎	津市市民部	平成 28 年度市民活動推進事業一 般選考委員	委嘱日～ 平成 29 年 5 月 31 日
21	村井 美代子	津市教育委員会	津市図書館協議会委員	平成 28 年 7 月 1 日～ 平成 30 年 6 月 30 日
22	笠 浩一朗	津市教育委員会	津市学校教育ネットワーク関連機 器等 プロポーザル方式審査委員会委員	委嘱日～ 平成 28 年 7 月 31 日
23	駒田 亜衣	津市食生活改善 推進協議会	津市食生活改善推進員リーダー研 修会講師	平成 28 年 9 月 4 日
24	木下 誠一	鳥羽市建設課	鳥羽市都市計画審議会委員	平成 28 年 7 月 1 日～ 平成 30 年 6 月 30 日
25	小野寺 一成	津市農林水産部	津市農業振興対策協議会委員	平成 28 年 7 月 1 日～ 平成 30 年 6 月 30 日
26	北村 香織	放送大学学園	「障害学から考える私たちの社会」 非常勤講師	平成 28 年 12 月 10 日、11 日
27	木下 誠一	三重県健康福祉部	老人保健福祉施設整備事業事前審 査会委員	平成 28 年 9 月 1 日～ 平成 29 年 8 月 31 日
28	駒田 亜衣	放送大学学園	「食生活と健康」非常勤講師	平成 28 年 11 月 5 日、6 日

29	竹添 敦子	放送大学学園	「男の友情を読む」非常勤講師	平成 28 年 12 月 10 日、11 日
30	東福寺 一郎	放送大学学園	「心理学実験 2」非常勤講師	平成 28 年 10 月 29 日、30 日
31	長友 薫輝	金沢大学大学院	「医療経済学特論」非常勤講師	平成 28 年 8 月 28 日 9 月 3 日、4 日
32	藤枝 律子	津市教育委員会	津市いじめ問題対策連絡協議会委員	平成 28 年 8 月 20 日～ 平成 30 年 8 月 19 日
33	長友 薫輝	三重県健康福祉部	三重県障害者施策推進協議会専門委員	平成 28 年 2 月 1 日～ 平成 30 年 1 月 31 日
34	南 有哲	津市環境部	津市廃棄物減量等推進審議会委員	委嘱日～ 平成 30 年 3 月 31 日
35	東福寺 一郎	鹿児島県立短期大学	自己点検・評価報告書に係る外部評価委員会委員	平成 29 年 1 月 1 日～ 平成 29 年 2 月 28 日
36	長友 薫輝	三重県健康福祉部	三重県障がい者差別解消推進協議会委員	委嘱期間未定
37	長友 薫輝	三重県健康福祉部	三重県国民健康保険運営協議会準備会公益代表委員	委嘱日～ 平成 30 年 3 月 31 日
38	長友 薫輝	三重県立看護大学	「社会福祉学」非常勤講師	平成 28 年 10 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
39	藤枝 律子	桑名市市長公室	桑名市職員研修講師	平成 28 年 9 月 7 日 平成 28 年 9 月 14 日
40	小野寺 一成	三重県県土整備部	三重県事業認定審議会委員	平成 28 年 9 月 19 日～ 平成 30 年 9 月 18 日
41	武田 誠一	津市介護保険課	津市介護保険事業等検討委員会委員	平成 28 年 10 月 1 日～ 平成 30 年 9 月 30 日
42	長友 薫輝	一般社団法人 日本社会福祉学会	第 64 回秋季大会口頭発表セッション全体統括者	平成 28 年 9 月 11 日
43	小野寺 一成	四日市市都市整備部	四日市市開発審査会委員	平成 28 年 11 月 1 日～ 平成 30 年 10 月 31 日
44	藤枝 律子	津市教育委員会	津市いじめ対策会議委員	平成 28 年 11 月 10 日～ 平成 30 年 11 月 9 日
45	田中 里美	放送大学学生課	卒業研究の報告書及び面接審査	平成 28 年 12 月 1 日～ 平成 29 年 1 月 31 日
46	東福寺 一郎	津市市民部	津市男女共同参画フォーラム講師	平成 28 年 12 月 3 日

47	長友 薫輝	松阪市健康ほけん部	松阪市高齢者保健福祉計画等策定委員会委員	委嘱日から2年間
48	山田 徳広	鈴鹿大学短期大学部	「管理栄養士国家試験準備講座」講師	平成28年12月3日
49	飯田 津喜美	(公財)三重県体育協会 スポーツ医・科学委員会	(公財)三重県体育協会スポーツ医・科学実行委員会委員	平成28年6月21日～ 平成30年6月20日
50	竹添 敦子	津市津図書館	図書館文学講座「最近の芥川賞作品について」講師	平成29年1月21日
51	川崎 航史郎	大阪府社会保険労務士会	大阪府社会保険労務士会研修講師	平成29年1月18日～ 平成29年2月27日
52	楠本 孝	津市市民部	津市人権施策審議会委員	平成27年1月10日～ 平成29年1月9日
53	富田 仁	桑名市総務課	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員	平成28年12月6日～ 平成30年12月5日
54	藤枝 律子	桑名市総務課	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員	平成28年12月6日～ 平成30年12月5日
55	富田 仁	桑名市総務課	桑名市行政不服審査会委員	平成28年12月6日～ 平成30年12月5日
56	藤枝 律子	桑名市総務課	桑名市行政不服審査会委員	平成28年12月6日～ 平成30年12月5日
57	金江 亮	慶応大学経済学部	慶応義塾大学経済学会セミナー講師	平成29年1月17日
58	川崎 航史郎	佛教大学生涯学習部	「法学概論 I 非常勤講師	平成29年1月29日
59	木下 誠一	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会審査部会員	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日
60	長友 薫輝	日本弁護士会	貧困問題対策本部における勉強会講師	平成29年1月13日
61	村井 美代子	放送大学学園	「英字新聞入門」非常勤講師	平成29年5月27日、28日
62	楠本 孝	三重県立みえ夢学園高校	三重県立みえ夢学園高校学校関係者評価委員会委員	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
63	楠本 孝	津市教育委員会	津市青少年問題協議会委員	平成28年10月1日～ 平成30年9月30日

64	杉山 直	愛知大学経営学部	「経営学概論Ⅰ(前期)」 「経営学概論Ⅱ(後期)」非常勤講師	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日
65	長友 薫輝	金沢大学大学院	「医療経済学特論」非常勤講師	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日
66	長友 薫輝	皇學館大学 現代日本社会学部	「社会保障論」非常勤講師	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日
67	駒田 亜衣	三重県津保健所	津地域栄養管理ネットワーク研究会委員	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
68	杉山 直	三重県環境生活部	三重県男女共同参画審議会委員	平成29年3月16日～ 平成31年3月15日
69	田中 里美	三重県総務部	三重県公益認定等審議会委員	平成29年5月1日～ 平成32年4月30日
70	富田 仁	三重県総務部	三重県収用委員会委員	平成29年4月1日～ 平成32年3月31日

5 地域の大学との連携

三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生が参加したり、教育学部家政教育コースと本学食物栄養学専攻の学生が中心市街地の店舗を利用した連携事業などを実施したりした。

(1) 三重大学生物資源学部との連携 農林体験セミナー

自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的に、三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を行った。参加した学生は宿泊所に泊まり、三重大学の学生とも交流を深めた。

ア 農場コース【土は生きている】

② 月 日 平成28年8月24日（水）～26日（金）

② 内 容 三重大学生物資源学研究科との連携事業（開放授業）として同研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設農場等において、「土は生きている」をテーマに、地域特産農産物などに関する知識の習得やイネの収穫、伊勢茶の加工、うどん作りなどを行った。

イ 演習林コース【森は生きている】

①月 日 平成28年9月5日（月）～7日（水）

②内 容 三重大学生物資源学部附帯施設演習林において、「森は生きている」をテーマに、天然生林・二次林などに関する知識の習得や人工林の土砂災害調査、森林環境調査などを行った。

(2) 三重大学家政教育コースとの連携 三重短期大学と三重大学の連携による「街の駅だいまん（大門）」を利用した学生カフェ『Café HONO BUONO』（カフェ ほのぼーの）

①月 日 平成28年12月18日（日）

②会 場 津市大門大通り商店街 「街の駅だいまん（大門）」

③内 容 三重大学との大学間連携の一環として、三重大学教育学部と連携して、「街の駅だいまん（大門）」で1日限定の学生による『Café HONO BUONO』を出店した。

三重短期大学生活科学科食物栄養学専攻の学生20名と、三重大学教育学部家政教育コース（吉本敏子教授）の学生12名が協議を進め、本年で7回目の出店となった。

地域のコミュニティとなるカフェの出店を通じ、三重大学教育学部家政教育コースでは、企画・広報や消費者の立場、商店街の役割など消費生活に関する実習、三重短期大学食物栄養学専攻ではランチセット、デザートセットなどのクリスマスに合わせた食べ物を提供する実習を行った。



(接客の様子)



(調理の様子)



(津市副市長が来店)



(ランチセット)



(デザートセット)

6 学生による地域連携

本学では、およそ700人の学生がそれぞれの目的を持って勉学に励みながら、サークル活動や大学行事を通して短期大学生活を送っており、この学生の短期大学生活を通しての地域との連携を地域連携の主体の一つとして掲げている。

今年度「地域連携サポーター」制度に53名の学生の登録があり、このサポーターを中心に、地域の様々なイベントへの学生参加や地域清掃のボランティア活動などに取り組んだ。

また、本学学生が津市消防団学生機能別団に入団し、消防団員として様々な訓練を受けるなどの取組を行った。本年度の団員数は45名であった。

(1) 地域連携サポーター制度

三重短期大学地域連携センターでは、地域連携活動やボランティア活動の情報を希望者に提供する地域連携サポーター制度を実施しており、登録学生数は53名であった。

ア 一身田寺内町・環濠・本山境内清掃（第1回）

- ① 日 時 平成28年5月28日（土）午前9時00分～午前10時00分
- ② 参加者数 31名

イ 一身田寺内町・環濠・本山境内清掃（第2回）

- ① 日 時 平成28年10月29日（土）午前9時00分～午前10時00分
- ② 参加者数 21名



（一身田寺内町・環濠・本山境内清掃）

ウ サンタクロースでゴミ拾い

- ① 日 時 平成28年12月23日（金・祝）午前10時00分～
- ② 内 容 「学生×地域活動」サポート情報局主催で、県内の高等教育機関（大学、短期大学、高等専門学校）の学生が集まり、サンタの格好をして三重短期大学周辺の街を綺麗にする地域活動を行った。

参加者数 31名

(2) 津市消防団学生機能別団員

同団は平成25年度に三重県下初となる学生機能別団として発足し、同団員は、消防講演会等における支援及び広報を行う火災予防活動、災害時における避難所での応急救護、物資配布などの支援などの避難所での活動を行う。

今年度も引き続き募集し、新入生22名が新たに任命され、津市夏期訓練などの訓練や津市消防本部が主催する防災啓発イベントに参加した。



(夏期訓練)



(消火訓練)

(3) 三重短期大学大津波想定避難訓練

近年中に発生が危惧される南海トラフ巨大地震による津波による被害が、本学の所在地域でも予想されることから、学生、教職員のほか地元自治会及び老人会合わせて約205名が参加し、高台の避難所である三重県総合文化センターまでの徒歩による避難訓練を実施した。

学内では、三重県防災危機管理部防災企画・地域支援課から派遣された防災啓発車による地震体験や煙体験ハウスによる地震や火災や体験を行った。

また、津市消防本部職員の協力を得て、学生機能別団がAEDの使用や人工呼吸などの救急救命の実演を行った。

- ① 日 時 平成28年10月27日(木) 午前10時～午後1時
- ② 場 所 三重短期大学及び三重県総合文化センター(知識の広場)



(救急救命の実演)



(徒歩による避難訓練)

(4) 513 BAKERYとの連携

- ① 期 間 平成29年2月1日～平成29年2月28日
- ② 内 容 今年度は、学生の貴重な社会勉強の場を体験し、津市産の食材を使うなど地域に貢献することを目的として、513 BAKERYの協力を得て商品開発を進め、同社とのコラボにより開発した商品（三重短パン）が同店全12店舗で、2月1日から一斉に発売された。
- ③ 参加者数 食物栄養学専攻 6名



(津ぎょうご風揚げパン)



(津みかんのヨーグラ)

(5) 津ぶぞろいフェス

- ① 日 時 平成28年11月13日（日）午後2時～午後4時
- ② 内 容 津市農林水産政策課主催で津市センターパレスホールにおいて行われた同フェスに参加した。
本学からは「津ぶっこ」創作メニューの6献立を試食用に出品し、学生がレシピを発表した。
- ③ 参加者数 学生15名、教員2名



(試食の提供)



(レシピの発表)



(カレーのラウンドぎょうざ)



(やみつきキャベツ津)



(じねんじょしんじょう～孫の恩返し～)



(津ぶっこ3品の豆乳ぜんざい)



(なんちゃっていかのお寿司)



(一口カリフォルニアロール
～こんにやくドリア～)

(6) 美化デー

- ①日 時 平成28年10月20日(木) 午後1時～午後2時
- ②内 容 市が実施する市民清掃デーを時期に合わせ、本学周辺の清掃を学生と教職員とで行った。
- ③参 加 数 学生・教職員21名

Ⅱ 資料

1 施設開放

本学では、「地域に開かれた大学」づくりを積極的に推進するために、教育・研究に支障のない限り、大学施設を地域に開放し、住民の皆さんが利用できるように努めている。

(1) 図書館

ア 概要

開館日	月曜日～金曜日
開館時間	開講日（講義がある日）…8：30～21：00 休講日（講義がない日）…8：30～17：00
休館日	土曜、日曜、休日、年末・年始（12月29日～翌年1月3日）、毎月月末、その他館長の定める日。また、1月と7月は、利用不可
利用資格	18歳以上の津市在住・在勤・在学者

イ 月別一般登録者数及び閲覧者数

年月	登録者数	閲覧者数
平成28年4月	8	2
5月	4	1
6月	1	2
7月	1	1
8月	2	1
9月	7	3
10月	5	1
11月	2	0
12月	5	0
平成29年1月	1	0
2月	2	0
3月	1	1
合計	39	12

(2) 体育施設（体育館、テニスコート、グラウンド）

ア 概要

開放日	1月5日から12月27日までの間における土、日及び祝日		
開放時間	9:00~21:00		
使用料 (別途、夜間 照明料要)	体育館	9:00~18:00	1時間につき 500 円
		18:00~21:00	1時間につき 750 円
	テニスコ ート	9:00~18:00	1時間につき 100 円(一面につき)
		18:00~21:00	1時間につき 100 円(一面につき)
	グラウンド	9:00~18:00	1時間につき 1,000 円
		18:00~21:00	1時間につき 1,000 円
利用条件	事前に、津市に在住、在勤、又は在学する者 10 人以上で構成され た団体で登録が必要。先に「開放施設使用団体登録申請書」を提出 し登録のうえ「開放施設許可申請書」にて申込み		

イ 月別登録団体数及び利用日数

年月	登録団体数	利用日数		
		体育館	テニスコート	グラウンド
平成 28 年 4 月	3	3	0	2
5 月	1	5	0	3
6 月	1	6	0	2
7 月	1	5	0	4
8 月	1	4	0	3
9 月	0	5	0	1
10 月	0	5	0	1
11 月	1	1	0	2
12 月	0	4	0	3
平成 29 年 1 月	1	5	0	1
2 月	0	3	0	2
3 月	0	3	0	2
合 計	9	49	0	25

2 三重短期大学地域問題研究所の研究一覧

地域問題研究所では、地域社会の発展、本学の教育・研究の発展に寄与することを目的に研究員（専任教員）が自身の専門分野に近い地域社会に関わる諸問題を調査研究している。

平成 28 年度は、次のような研究が行われた。

研究員名	研究テーマ	研究概要
杉山 直	トヨタの労使関係の研究	トヨタは 2016 年から技能職の人事制度を変更し、現在は労使で事務技術職の「働き方」の見直しを進めている。また、技能職においても、新人事制度の運用上の課題の検討が進められている。本研究では、トヨタにおける事務技術職の人事管理の変更を明らかにしつつ、それを通じた労使の取り組みから、労使関係の新たな特徴を明らかにしたい。また、トヨタの労使関係は、全トヨタ労連を通じて、トヨタの関連企業の労使関係に影響を与えている。本研究では、三重県下のトヨタ関連企業の労使関係も取り上げていきたい。
楠本 孝	ヘイト・スピーチと刑法	差別的言論の刑事規制の可能性を検討する。大阪市条例を参考に比較法的研究と並んで歴史的研究も行う。
金江 亮	最適成長理論に基づく格差・成長の研究	近年、ピケティがブームになるなど、資本主義の長期動向と格差問題とを結びつけた研究が注目されている。格差や階級の問題はリカード・マルクスの古典派経済学から扱われているが、これを現代の最適成長理論の枠組みで分析する。 格差といっても、いろいろ考えられる。たとえば、松坂市は畜産が盛んであり、それを資本とみれば畜産資本の蓄積が進んでいる。同じように、四日市市は工業資本、伊勢市は漁業資本というように、種類の異なる複数の資本があり、その資本蓄積の差が経済成長や格差の問題にどう影響するかは、理論的にも実証的にも興味深い問題であり、研究したい。

小野寺 一成	地方都市再生に向けたコンパクトな都市構造の形成と都市再生手法に関する研究	地方都市の再生に向け、重要な歴史的文化的資源と公的施設や都市機能が集積した城址周辺地区や商業業務地区を含む中心市街地及び地域拠点に着目して、コンパクトな都市構造の形成と都市再生手法に関する知見を得ることを目的とする。都市機能が集積する城址周辺地区や商業業務地区において、公共施設集約化等による先進的な都市づくりを行っている事例研究を通して、中心市街地のあり方及び都市再生手法の検討を行う。具体的・先進的な事例をもとに調査を行い、プロジェクトの背景やプロセスの特徴をまとめる。
駒田 亜衣	特定健診受診者の栄養調査実施による健診結果の改善効果について	三重県亀山市で実施された特定健診の受診者を対象に栄養調査を実施し、その結果を対象者に返却する。結果には食生活の問題点や改善すべき点を詳細に記載し、自身の食生活改善のきっかけとしてもらう。調査の実施と結果の返却により、検査結果と自身の食生活とを照らし合わせて振り返ることができ、そのことが、次年度の特定健診の結果改善につながると思われる。 栄養調査を実施しない対象者もコントロール群としておき、調査実施者との改善程度の比較を行う。調査実施による健診受診率の向上も見込める。
茂木 陽一	近代における棄児の比較研究	明治4年の棄児救育米制度の成立以後、不十分ながら捨て子は国家的保護の対象となるが、それと関連してマビキ慣行(墮胎・嬰兒殺)の一部を構成していた遺棄の対象としての捨て子が消滅していったのか、否かを比較研究の視点から分析していく。 具体的には、長崎県・東京府と三重県の比較により研究を進め、進展の状況により福岡県・愛媛県に分析の対象を拡大していく。

北村 香織	ユニバーサルデザインのまちづくりにおける住民参加のあり方	<p>三重県には「ユニバーサルデザインのまちづくり条例」が存在し、津市においてもユニバーサルデザインのまちづくりが目指されている。</p> <p>誰もが住みやすいまちづくりを目指すためには、住民の意見をくみ取る必要があるが、最も支援や配慮を必要とする人々程意見を表明する場や機会がない。さらに今年は「障害者差別基本法」も施行され、障害を持つ人への合理的配慮が地方公共団体に義務付けられる。配慮を行うためには、まず当事者の意見の表明が必要となる。</p> <p>「まちづくり」を進める際に支援や配慮が必要な人々が意見を表明するにはどのような具体的な工夫や施策が必要なのか、「権利」や「合理的配慮」を理論的に整理しながら、津市を題材として検討する。</p>
武田 誠一	地域包括ケアシステム下における主任介護支援専門員の役割に関する研究	<p>本研究は、これまで指摘されることの少なかった特定事業所加算を算定する居宅介護支援事業所(以下、居宅事業所)に勤務する主任介護支援専門員が、地域包括ケアシステムを推進する上での役割について調査研究するものである。</p> <p>現在、持続可能な社会保障制度維持のため、「自助・互助・共助・公助」の適切な組み合わせが求められているが、特に地域住民を中心とした「互助」への期待が大きくなっている。</p> <p>地域での「互助」の仕組みづくりは、地域包括支援センターび主任介護支援専門員が担うとされている。しかし、地域包括支援センターの主任介護支援専門員よりも多くの主任介護支援専門員が居宅事業所に勤務している現状があるにもかかわらず、その役割については十分に論じられていない。</p> <p>本研究はこの点を明らかにするため、郵送調査を実施する。</p>
長友 薫輝	皆保険体制による医療保障の現状と課題	<p>2015年5月に成立した医療保険制度改革関連法など一連の改革にともない、皆保険体制による医療保障はどのような姿となるのか検討を進め現状と課題を把握する。</p>

<p>三宅 裕一郎</p>	<p>安全保障法制が地方自治体や民間部門にもたらす影響</p>	<p>2015年9月19日、空前の国民的反対の声を前に、国会で安全保障法制が可決成立した。平時から有事まで様々な「切れ目のない」事態に自衛隊が対処することを可能とするこの安全保障法制は、これまで政府自身が維持してきた憲法9条解釈をも大きく踏み越える構造となっており、さらには、やはり昨年4月27日に再改定されアメリカの軍事的ニーズが全面的に打ち出された日米防衛協力の指針（日米ガイドライン）に規格されたものとなっている。</p> <p>当然のことながら、このような新しい安全保障法制は、自衛隊の活動範囲を拡大するだけでなく、一般市民生活にも大きな影響をもたらしかねない。つまり、現代の戦争では、軍事組織が円滑な軍事作戦を展開するためには、場合によっては地方自治体や民間部門の協力・動員が不可欠となるということであり、この論点は、実は安全保障法制論議の中でほとんど深まることはなかった。</p> <p>本研究では、安全保障法制が地方自治体や民間部門にもたらしうる影響について具体的なケースをあげながら検証すると共に、それらに対するコントロールをどのように確保していくかについても検討していきたい。</p>
---------------	---------------------------------	---

<p>山田 徳広</p>	<p>「みえ“食発・地域イノベーション”創造拠点」事業としての「生姜プロテアーゼを用いた豆乳ゲル化食品の開発に関する研究」</p>	<p>三重県工業研究所『食と医薬研究課』は、「みえ“食発・地域イノベーション”創造拠点」として「食発・地域イノベーション創出展開事業」、「海外・大都市を目指すグローバル食品の開発促進事業」、「6次機能を強化した食品・医薬品の素材開発」を推進することによって県内の食品・薬事関連企業に向けて新たな商品開発や三重ブランド構築等を支援している。</p> <p>食品の6次機能とは、食品の栄養特性としての1次機能、嗜好特性としての2次機能、健康の保持・増進物質としての3次機能の3つの機能が総合的に優れた$1 \times 2 \times 3 = 6$次機能である。1次機能は栄養素を補給して生命を維持する栄養としての機能であり、2次機能は色、味、香り、歯ごたえ、舌触りなど食べたときにおいしさを感じさせる嗜好・食感としての機能である。3次機能は生体防御、体調リズムの調節、老化制御、疾患の防止、疾病の回復調節など生体を調節する健康性機能・生体調節機能のことである。6次機能が優れた食品は1次、2次、3次機能が総合的に優れた食品であり、美味しく健康的な理想の食品であると言って良い。</p> <p>近年、三重県は大豆の生産を振興しており、その作付面積は平成6年の780ha以降増加し、平成26年には4260haと、5倍以上となった。</p> <p>上記のことから、大豆を利用した6次機能に優れた加工食品を開発することは、「みえ“食発・地域イノベーション”創造拠点」の事業として有用であり、新たな三重ブランド食品の開発につながる。</p> <p>豆乳は栄養価が高く（1次機能）、イソフラボンなどの機能性成分（3次機能）も有している。また、上記の様に三重県は豆乳の原材料である大豆の生産を振興している。生姜は抗酸化作用や抗血栓作用などの機能性（3次機能）を有すると共にたんぱく質を分解するプロテアーゼを有しており、生姜汁が牛乳中たんぱく質に作用して牛乳ゲルを形成することが知られている。申請者らは、予備実験において生姜汁が豆乳中たんぱく質に作用して豆腐とは異なる食感を持った豆乳ゲルを形成することを見出した。日本には、豆乳ゲル化した豆腐に生姜を添える習慣があり、豆乳ゲルと生姜の組み合わせ日本人の嗜好に合っている（2次機能）。これらの事から豆乳と生姜汁を組み合わせたゲル化食品を開発する事は、大豆を利用した6次機能（栄養・嗜好・健康）に優れた新たな加工食品を開発することとなり、「みえ“食発・地域イノベーション”創造拠点」の事業と合致する。そこで、申請者は、三重県工業研究所『食と医薬研究課』と共同してこの研究に取り組むこととした。</p>
--------------	---	--

3 平成28年度 三重短期大学出前講座 テーマ一覧表

No	テーマ	概要	講師	備考
1	記憶の心理学	人間の記憶はどのような働きをしているのでしょうか。簡単な心理学実験を交えながら、記憶過程についての心理学的知見を紹介します。	学長 東福寺一郎	
2	男女共存社会のすすめ	「共存社会」とは相手の存在を否定することなく、互いにそれぞれが望む生き方を受けとめ、その実現に向けて支えあう、少なくとも邪魔をしない社会であると考えます。 男女共同参画もその根底において「共存」の感覚が必要です。	学長 東福寺一郎	
3	心理学ミニ実験	心理学というとカウンセリングなどを真っ先に思い浮かべる方が多いですが、実際には様々な実験が行われています。この講座では、簡単な実験を経験することを通じて、心理学をより身近に感じていただくことをねらいとしています。実験テーマは条件等を勘案して決めます。	学長 東福寺一郎	高校生向け
4	地方分権改革と地方自治	地域住民にとっても重要な「地方自治」のあり方を、近年実施されてきた地方分権改革の動向と絡めて考えます。	法経科 教授 立石芳夫	
5	生活保障のための政治行政システム	本来、政治や行政は、国民の社会生活を支えるためにありますが、近年、その不十分さが指摘されています。 「生活保障」という言葉をもとに、国民生活を支えるための政治行政のビジョンについて考えます。	法経科 教授 立石芳夫	
6	政治とは何か、行政とは何か	「政治」や「行政」とは何か、まずは政治学・行政学の立場から基本のお話をし、そのうえで、日本など各国が抱えている主な課題をとりあげ、将来社会について考えます。	法経科 教授 立石芳夫	高校生向け
7	外国人との共生について	入管法など外国人の法的地位に関する法制度を解説し、外国人の生活実態調査から見えてくることを通じて、外国人との共生の在り方を考えます。	法経科 教授 楠本孝	
8	裁判員制度について	裁判員制度の概要を解説し、その問題点を検証します。 より良い制度にするために、どんな改善点があるかを一緒に考えます。	法経科 教授 楠本孝	高校生も対応可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
9	少年非行について	<p>巷間言われる少年非行の増加、凶悪化、低年齢化は本当か？犯罪統計を基に検証します。</p> <p>また、少年法適用年齢を18歳未満に引き下げることの是非についても一緒に考えます。</p>	法経科 教授 楠本孝	
10	「憲法」ってどんな法？	<p>社会の授業ではよく目にしても、日常生活を送る中でなかなか身近に感じるできない「憲法」。</p> <p>でも、「憲法」は、私たちが「人間として」生存していくために重要な役割を果たしているのです。</p> <p>具体例を通じて、考察します。</p>	法経科 教授 三宅裕一郎	高校生も 対応可
11	憲法9条の現実的な意義	<p>「平和主義」を否定する人はほとんどいないと思います。</p> <p>また、どこかが攻めてきたときのための「必要最小限度の実力」の準備も大方の偽らざる本音だと思います。</p> <p>この2つの視点から、現代における憲法9条の意義について考察します。</p>	法経科 教授 三宅裕一郎	高校生も 対応可
12	「憲法改正」について考える	<p>日本国憲法が制定されて70年。「古くて時代に適合しなくなった憲法は変えるべき」という声もよく聞かれます。</p> <p>でも、1度も「憲法改正」が行われなかったのはなぜなのでしょう？</p> <p>「憲法改正」ということの真の意味について考察します。</p>	法経科 教授 三宅裕一郎	高校生も 対応可
13	信託制度	<p>多くの人が信託という言葉でまず思いつくのは、信託銀行や投資信託といったものではないでしょうか。信託制度は、アメリカなどでは、家産保護や財産承継等に使われており、一般的に利用され、広く知られている制度です。</p> <p>信託法の基礎的理解を目的に、信託関連の事件等を踏まえ、信託制度の説明紹介をしたいと思います。</p>	法経科 教授 富田 仁	
14	契約の有効性について一公序良俗を中心に	<p>契約（両当事者の意思の合致）を結ぶと、それを結んだ当事者は契約の効果により拘束を受けます（自動車の売買の場合、売主は自動車の引渡しをし、買主は代金の引渡しをするというような拘束を受けます）。しかし、契約自体に法秩序を乱すような内容が含まれていた場合にも、有効な契約として当事者はそれに拘束をされるのでしょうか。</p> <p>契約と公序良俗との関係を中心に、判例を踏まえながら考察します。</p>	法経科 教授 富田 仁	高校生も 対応可
15	民法とはどんな法律だろう？	<p>法律の中で民法は身近な法律といわれています。その理由は、物を買ったり・借りたり、結婚や財産の相続等といった、日常生活に関する行為を規定する法律だからです。</p> <p>民法の紹介をしながら、事件を取り上げ、民法の社会的な位置づけを考えます。</p>	法経科 教授 富田 仁	高校生 向け

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
16	職場における基本的ルール	働きだした若者が直面する職場でのトラブルをいくつか紹介し、働くルールを定める労働法の観点から、どのように問題解決を図るべきか、講義します。	法経科 准教授 川崎航史郎	高校生も対応可
17	貧困の増加と生活保護の役目	「生活保護受給者が増えて危機的状況である」、さらには、「不正に利用している者がたくさんいる」、という話をよく聞きます。果たして本当でしょうか？生活保護の仕組みを法律の条文を参考にしながら、貧困者が増大する中での生活保護制度の意義と役割について考えてみましょう。	法経科 准教授 川崎航史郎	
18	人間らしい働きがいのある労働と生活には、何が必要か。	人が健康で文化的に生きていくためには、働く際の労働内容と、働けない時の社会保障（学生への奨学金政策も含む）が必要です。ところが、日本では、両方がうまく機能しなくなってきました。日本のこれまでの労働政策と社会保障政策を振り返り問題点を明らかにし、将来を展望し、どのような働き方と社会保障が望まれるか、考えてみましょう。	法経科 准教授 川崎航史郎	
19	ニュースでよく聞く「行政代執行」って何？	ニュースでよく取り上げられる「ゴミ屋敷」や、壊れそうで危険な「空き家」などに関連して、「行政代執行」という言葉を耳にします。これは、行政上の強制執行制度の一つとして、行政代執行法に定めがあります。この制度はどのような場面で、どのように使われているのでしょうか。それは、行政の実効性確保の手段として有効でしょうか。行政上の強制執行制度の現状等を考えます。	法経科 准教授 藤枝律子	
20	六法を引いてみよう	現代社会において、ある程度の法的知識を身につけておくことは非常に大切なことです。とはいっても、六法をめぐってみると、文字ばかりで、なんだか難しそうな文章が並んでいるし、読む気にもならないかも知れません。本講座では、六法を実際に引いてみて、六法の使い方を学んでいただこうと思います。何か面白い発見ができるかもしれません。	法経科 准教授 藤枝律子	
21	国家賠償法とその判例	国家賠償法は、国や地方自治体の損害賠償責任に関するルールを定めています。国家賠償法の紹介をしながら、判例を取り上げ、国賠のもつ社会的な役割を考えます。	法経科 准教授 藤枝律子	
22	マーケティングを通じて自分の価値創造を高めよう	現代においてモノを売る時代からコトを売る時代へと変化しています。マーケティングを通じて自分の生活シーンをどう描いていくか考えていきましょう。	法経科 講師 鷲尾和紀	
23	10代から学ぶパーソナルファイナンスライフプランを考えよう	将来自分がどうなりたいのか。生活していくにはさまざまな費用がかかります。自分の将来設計を考えながらお金にまつわる話をしていきたいと思えます。	法経科 講師 鷲尾和紀	高校生向け

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
24	リレーションシップ・マーケティング	近年、サービス業が増加していく中、サービス内容・品質とお店と顧客との信頼関係が求められています。長い間お付き合いするためにはどういった距離感で接していいかサービス業独特の説明を致します。	法経科 講師 鷲尾和紀	
25	TPP と今後の貿易協定の行方	米国の離脱で発効できなくなった TPP ですが、なぜ交渉をリードしていた米国は離脱したのか。そもそも TPP とは如何なる内容だったのかを学びながら、今後の日本の貿易協定の行方についても考えてみたいと思います。	法経科 教授 石原洋介	
26	東アジア共同体を考える	東アジアでは、EU のような地域共同体をつくる構想について検討を重ねています。その内容と議論をリードする ASEAN の役割を紹介しながら、日本とアジアの将来を考えてみたいと思います。	法経科 教授 石原洋介	
27	フェアトレードの挑戦	長年の先進国や国際機関からの援助にもかかわらず、世界にはまだ多くの貧しい人々が存在します。近年注目を集める、公正な取引を通じて貧困問題を解決する手法、フェアトレードについてお話します。	法経科 教授 石原洋介	高校生向け
28	「働き方・働かされ方」について考える	過労死、ワーキングプアをはじめとし、働くことに関して暗い話が多くあります。今日の働き方・働かせ方の状況はどのようになっており、その原因はどこにあるのかを考えていきます。	法経科 准教授 杉山 直	
29	人間らしく働くこととは	1999年、ILOはディーセント・ワーク(人間らしく働く)を活動目標にしました。 「人間らしく働く」とは、どのようなことなのか、どのように現状を変えていったらよいのかを考えていきます。	法経科 准教授 杉山 直	
30	決算書を読んでみよう(基本)	決算書は財務諸表と呼ばれ、貸借対照表や損益計算書などを指します。本講義では、企業の公表する決算書の読み方の基本をお話します。	法経科 准教授 田中里美	
31	経営分析—企業の財務諸表を使って(応用)	財務諸表を分析することで企業の状態を把握することができます。本講義では、財務諸表を実際に分析し、企業の状態を読みとります。	法経科 准教授 田中里美	
32	公認会計士のお仕事と会計監査	公認会計士は証券市場に上場する企業の財務諸表を監査しています。さらに、公正な証券市場の運営のために、財務諸表を監査し、投資家に適正な情報を提供しています。本講義では、公認会計士監査についてお話します。	法経科 准教授 田中里美	高校生向け

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
33	マルクスと現代経済学	マルクス経済学と近代経済学は対立するものと通常思われています。しかし、両者は別段対立するものではありません。現代経済学の観点からマルクス経済学をどう観ることができるかを考えます。	法経科 准教授 金江 亮	
34	景気を良くするには	現在、アベノミクスを巡って経済学者の中でも対立があります。金融政策、財政政策の初歩についてお話しします。	法経科 准教授 金江 亮	
35	数学と経済学	高校数学における最大値・最小値問題は、大学数学ではラグランジュ乗数法で一般的に扱われます。それは、経済学的な意味もあるということをお話しします。	法経科 准教授 金江 亮	高校生も可
36	税とは何か	税金は、われわれの日常生活に非常に密接な関わりがあります。本講義では、なぜ課税されるのか、など、税金に関する根本的な考え方について分かりやすく解説します。	法経科 准教授 大畑智史	
37	マイナンバー制度の今後の課題	日本で、マイナンバー制度の活用が本格化してきています。本講義では、マイナンバー制度の今後の課題について、マイナンバー制度の概要、その民間活用、などの視点を込めて分かりやすく解説します。	法経科 准教授 大畑智史	
38	消費税の軽減税率を理解する	日本では、消費税軽減税率が近い将来に導入される予定です。本講義では、この仕組みの各種性質をわかりやすく解説します。	法経科 准教授 大畑智史	
39	時代小説は庶民をどう描いているか	山本周五郎、藤沢周平、宇江佐真理らの作品に描かれた庶民の感情を探ります。 時代小説が作り出した「江戸」の風景は、いわば現代の私たちの遙かなる故郷であり、理想郷です。その意味をさまざまな作品とともに考えます。	法経科 教授 竹添敦子	
40	文学に描かれた私たちの町	三重県は多くの文学作品の舞台になっています。実際の作品（例えば、三浦しをん「神去」シリーズ）を取りあげて、自分たちの町を文学作品から眺めてみましょう。	法経科 教授 竹添敦子	高校生も可
41	昔ばなしを比べてみよう	日本の昔ばなしと西欧の昔ばなし。似ているような、似ていないような……。それぞれの文化遺産としての昔ばなしを比べてみましょう。	法経科 教授 竹添敦子	高校生も可
42	イギリスの文学や絵画にみる死生観	「平家物語」などの日本の古典文学に多い、生のはかなさや死への想いは、日本固有のものではありません。イギリスの詩や演劇、絵画の中に死生観をたどり、国や時代を超えた共通の人間の感性に触れます。	法経科 教授 村井美代子	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
43	「赤毛のアン」を読み直す	1908年の出版以来、世界中で親しまれている「赤毛のアン」。出版直後から次々に続編が書かれ、仕事を持ち、結婚し、母になるアンの姿が描かれます。 女性が才能を開花させ、仕事と家庭を両立させていくことのむずかしさを、主人公アンの姿と作家モンゴメリの素顔を通して考えてみましょう。	法経科 教授 村井美代子	
44	あらすじで読み直すイギリス小説	「フランケンシュタイン」や「透明人間」、「タイムマシン」、「ガリバー旅行記」など、タイトルが半ば固有名詞化しているイギリス小説は少なくありません。 本来のストーリーをたどると、聞き慣れたタイトルから描くイメージとは異なる小説世界が見えてくるかもしれません。	法経科 教授 村井美代子	高校生も対応可
45	食べ物とがんについて	がんの主な原因は喫煙と食習慣で、ともに約30%ずつを占めると言われています。 日常の食事が、がんの発生と予防の両面においてどのように関連しているかを科学的な根拠に基づいて解説します。	生活科学科 教授 伊藤貴美子	
46	「健康食品」を考える	さまざまな効果をうたった健康食品の情報が、連日、メディアなどから大量に流されています。しかし、実際にはほとんど効果がないものや、却って健康を損ねる恐れもあります。 “体によい”食品の情報を整理し、上手なつきあい方を提案します。	生活科学科 教授 伊藤貴美子	
47	魚を食べよう！（ ω -3脂肪酸の話）	一般に ω -3脂肪酸と言われているEPA, DHA, α -リノレン酸。生活習慣病予防の予防と治療の観点からこれらの脂肪酸が注目を集めています。 意外と知られていない ω -3脂肪酸の害を含めて、上手なつきあい方を解説します。	生活科学科 教授 山田徳広	
48	糖尿病との付き合い方	糖尿病は怖い病気であると言われていています。それではなぜ、血糖値が上がると恐ろしいのでしょうか？筋肉運動がインスリンの代用をする事も意外と知られていません。糖尿病は上手に付き合いえば、長生き出来るのです。 糖尿病の病態を説明すると共に、食事と運動を組み合わせた糖尿病との付き合い方を提案します。	生活科学科 教授 山田徳広	
49	メタボリックシンドロームの現状と食生活による予防	メタボリックシンドロームはなぜいけないのか？ 体の中で行われる代謝の仕組みから考え、食生活による予防を目指します。 ワークショップを取り入れ、自分自身で実行可能な行動目標を立てていきます。	生活科学科 准教授 阿部稚里	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
50	食事をバランスよく食べよう！	バランスよく食べるためにはどうしたらいいのか？ 食事バランスガイドを使って、自分の食事内容を見直し、バランスのよい食事を目指します。 料理カードを使い、自分自身でバランスのよい献立を組み立てていきます。	生活科学科 准教授 阿部稚里	
51	栄養士・管理栄養士とは？	栄養士・管理栄養士の仕事内容、栄養士・管理栄養士の活動の歴史など、栄養士や管理栄養士が身近に感じられるようなお話です。 栄養士を目指す学生に、本学食物栄養学専攻の講義内容や在学生の様子なども合わせて紹介します。	生活科学科 准教授 阿部稚里	高校生 向け
52	メタボ健診受診のすすめと津市の健康課題	平成 20 年から始まった特定健診、いわゆる「メタボ健診」。津市では毎年約 19,000 名近くの方が受診されていますが、どの検査項目が良好で、どの検査値が要注意なのか、実際のデータ解析から分かった津市の特徴などをお示しし、健康課題について考えます。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
53	海外での栄養士活動	途上国で青年海外協力隊の栄養士として過ごした 2 年間の活動を報告します。 ドミニカ共和国と日本の違い、栄養士として活動する中で工夫した点、その他、国の様子や現地の人との生活、食習慣などについてご紹介します。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
54	三重県の食状況について	三重県民の食事の状況はどう変わってきたのでしょうか？これまでに実施されてきた県民健康・栄養調査の詳細な解析結果について、全国と比較しながらご紹介します。不足している食品は何か、摂り過ぎに気を付けるべき栄養素は何かなど、問題点や課題について一緒に考えたいと思います。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
55	健康づくりのための家庭料理を学ぼう	近年、生活習慣病は増加の一途をたどり、食による健康保持・疾病予防の必要性が高まっています。 地産地消の料理レシピを用いた調理実習などを通して健康づくりのための食品選択のポイントをご紹介します。	生活科学科 助教 飯田津喜美	高校生も 対応可
56	食物からの DNA 抽出実験	身近な食材（鶏レバー）から DNA を抽出して白い糸状の沈殿を観察してみましょう。（所要時間によってはパワーポイントスライドなどを併用し実験操作を短縮することも可能です。）	生活科学科 助教 飯田津喜美	高校生 向け
57	骨の健康を守るために	骨量は年齢とともに減少し、骨折しやすい状態になります。特に女性はホルモンの変化により骨量の減少が顕著です。骨の健康を維持するための食習慣、生活習慣についてお話しします。	生活科学科 助教 杉野香江	
58	自分に必要な栄養量を考える	人はそれぞれ必要なエネルギーや栄養素の摂取量が異なります。理想的な体重や、厚生労働省による日本人の食事摂取基準を確認しながら、自分に必要な栄養と食事、さらに健康づくりについて一緒に考えます。	生活科学科 助教 杉野香江	高校生も対応 可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
59	女性のライフステージと健康づくり	女性が生涯にわたって健康で明るく充実した日々を自立して過ごすための健康講座です。思春期、性成熟期、更年期における女性ホルモンの変動、食習慣、運動習慣、女性特有の病気などのお話をしていきます。	生活科学科 助教 杉野香江	高校生も対応可
60	地域の医療や福祉のことを考える	年金や医療保険のことをはじめとして、何となく知っているけれど詳しくは分からないという社会保障について一緒に考えてみませんか？	生活科学科 教授 長友薫輝	
61	働く前に知っておきたい社会保障のこと	アルバイトなど「働く」ということを通して社会に出る、その前に知っておきたい社会保障のことを考えてみませんか？ この社会で生活する上で知っておいて損はないことばかりです。	生活科学科 教授 長友薫輝	※高校生向け
62	障がい者って誰のこと？	普段何気なく使う「障がい者」とは、一体誰のことを指すのでしょうか。 視力が悪く、コンタクトを使っている人は障がい者だろうか？「障がい者」とは？ということを確認していく作業を通して、「障がい」とは何なのか、自分が暮らす社会に存在する、障がいのある人を支える仕組みについて考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生も対応可 ※平成29年9月30日まで
63	社会福祉のしくみ	社会福祉は、一般的に「思いやり」や「やさしさ」という言葉で語られがちですが、社会福祉とは、「健康で文化的な最低限度の生活」を守るための、具体的な制度やサービスとして存在しています。 社会福祉のサービスや制度について、歴史をひもとき、実際の制度を紹介しながら考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生も対応可 ※平成29年9月30日まで
64	病院で「もうすぐ、退院です」と言われて慌てないために…	高齢化による医療費増加に伴って、入院期間は短縮される一方です。しかし、そのことは本人・家族が入院して初めて直面する課題となっています。スムーズな退院を実現するために、何をすべきか、事前におきませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
65	ソーシャルワーカーという仕事	ソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士）とは、どのような仕事なのか？活躍するフィールドを示しながら、その役割を詳しく説明していきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	高校生向け
66	地域で高齢者の生活を支えるために、私たちができること	国は「自助・互助・共助・公助」による地域包括ケアシステムの整備を進めています。特に近隣住民による「互助」が強く求められています。そこで、私達の地域で何が可能か考えてみませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
67	人を援助する「私」を知る	<p>地域で福祉ボランティアを始める際に理解しておくべき、対人援助場面でのコミュニケーションのあり方、心構えなど学びます。</p> <p>そして、他者を支援する「私」を知ることの重要性を考えていきます。</p>	生活科学科 准教授 武田誠一	
68	生物多様性を考える	<p>生物多様性の破壊は、地球温暖化問題と並んで、人類にとっての最重要課題となっています。震災と原発事故以降注目されることが少なくなったようですが、問題の重要性や深刻さが解消されたわけではありません。</p> <p>「生物多様性とは何か」「なぜ保全が必要なのか」「何が求められているのか」といったテーマについて解説します。</p>	生活科学科 教授 南 有哲	高校生も 対応可
69	外来生物問題の環境倫理	<p>生物多様性を脅かす要因の一つとして外来生物問題が注目され、関連する法制度の整備や駆除の取り組みも進んできました。またこの問題は、自然と人間の関係にかかわる多様な論点を提示してくれます。外来生物問題について「環境倫理学」の観点から考えていきます。</p>	生活科学科 教授 南 有哲	高校生も 対応可
70	住民参加とコミュニティ	<p>全国各地で住民参加のまちづくりが取り組まれており、少子高齢化や人口減少化の時代にその必要性が問われています。木造密集市街地の住環境整備と公営住宅の建替え事業を事例に、コミュニティの形成などに向けた、住民主体のまちづくりの大切さについて考えていきます。</p>	生活科学科 准教授 小野寺一成	
71	都市計画とまちづくり	<p>まちづくりという言葉はよく耳にしますが、その基本となる都市計画についてはあまり知られていません。日本における都市計画とまちづくりの変遷を解説しながら、都市づくりやまちづくりに必要な都市計画法・制度等についてやさしく紹介します。</p>	生活科学科 准教授 小野寺一成	
72	まちづくりと景観計画	<p>全国各地で景観の乱れが進行している中、環境問題や生活の豊かさへの関心の高まりとあわせて、景観づくりに対する市民の意識が高まっています。ここでは、魅力あるまちづくりの一環としての景観計画について紹介します。</p>	生活科学科 准教授 小野寺一成	
73	共に住まう集合住宅	<p>家族や近隣との関係が希薄になり、子育てや介護の不安などから共に住まうことの価値が見直されています。このような集合住宅の特徴について紹介します。</p>	生活科学科 教授 木下誠一	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
74	高齢者の住まい	高齢者の方が心身の状況に応じた住まいを確保し、生活支援や介護サービスなどを利用しながら安全で快適に暮らせる住まいについて考えます。	生活科学科 教授 木下誠一	
75	個人情報の流出事件はなぜ起きる	毎年、複数の大規模な個人情報流出事件が発生しています。事件が発生した原因を解説します。	生活科学科 准教授 笠浩一郎	
76	LINE スタンプの作り方	三重短期大学では、LINE スタンプひつじの「みえ〜ちゃん」を制作しているので、そこで得た LINE スタンプ作りの知見を紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一郎	高校生も 対応可
77	統計的な分析を日常で活用しよう	最近、大規模なデータ（ビッグデータ）を統計的に解析する仕組みが確立されています。言語データを中心に、大規模データを分析する仕組みを紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一郎	

2016年度(平成28年度)
三重短期大学地域連携センター年報
平成29年12月

発行 津市立三重短期大学 地域連携センター
〒514-0112 三重県津市一身田中野 157 番地
TEL 059-232-2341 FAX 059-232-9647
E-mail 232-2341@city.tsu.lg.jp